

「標準Ⅱ型」は56点加算

I型40—60、簡易型36点

北陸地方整備局は、2008年度発注工事を対象とする総合評価方式の実施計画をまとめた。新たなタイプとして「標準Ⅱ型」を設けるとともに、評価項目に工事成績評定（優秀企業、下請表彰、地域貢献度、配置予定技術者の工事成績、継続教育（CPD）、災害支援を追加する。タイプ選定適用の見直しにより、発注件数に占める割合は、今後「標準Ⅱ型」が主体になる見込みだ。評価項目の追加により、施工体制評価点を除く加算点は、「簡易型」が36点、「標準Ⅰ型」が40—60点、「標準Ⅱ型」が56点となる。実施計画の内容は、5月以降に入札手続書に入る案件から適用する。

タイプ選定の見直しめ、こうした工事については、工事の特性や工場の課題の難易度を勘案し、現行の「簡易型」では新設する「標準Ⅱ型」に現行条件などに対する工率上の配慮事項などを加える。技術提案を求める場合、「簡易型」の簡易評価をもつにする。簡易型は、簡易型タイプがとくに増えた。簡易型は簡易型と同一、企業は技術力、配置予定技術者の能力、地域貢献度、当該工事への新技術の適用も評価する。

このうち、企業の技術力

成期間を一定期間以上確保する「標準Ⅰ型」を採用する。従来の標準型では当該技術の新技術の適用も評価していたが、「標準Ⅰ型」では同項目を削除し、技術提案のみを評価する。簡易型の高い技術提案などを求める場合は「標準Ⅱ型」を適用する。

「簡易型」の簡易な施工計画の配点は10点で、「標準Ⅱ型」の技術提案の配点は30点となる。同タイプには現行の簡易型と同様、企業は技術力、配置予定技術者の能力、地域貢献度、当該工事への新技術の適用も評価する。

このうち、企業の技術力